



麻布幼稚園だより 5月号

平成29年4月28日 港区立麻布幼稚園 園長 大島 美知代

「手を携えてNo.2」

園長 大島 美知代

始業式、入園式が終わり、あっという間に4月が終わり、緑いっぱいの5月になります。桜は可愛い花をたくさん付けて、子どもたちの進級・入園を祝ってくれました。一番きく組保育室に近い桜（ソメイヨシノ）の木は今年度の冬にはたぶん工事のため切られてしまうことになっています。園庭のシンボルのような存在の木なのでなんだかかわいそうな気がします。私は毎朝園庭を点検する時に必ずソメイヨシノに話しかけたり、たくさんの花を付けてくれたお礼を言ったり、幹に触ったりしています。

先月子どもたちには新しいことがいっぱいありました。まずクラス名が新しくなりました。担任の先生、またはお手伝いの先生が変わり、新しくなりました。そして自分たちが過ごす場所が変わり、自分のロッカーやタオル掛け、靴箱も変わり、新しくなりました。4歳さくら組は自分の目印マークも新しく変わったのではないのでしょうか。

園長の私が園児一人一人の名前をしっかりと覚えていないうちに、子どもたちの方から「園長先生 こんにちは」「園長先生、みつけた!」と言ってくれたり、手を振ってくれたりします。廊下や保育室で出会った時、そんな子どもの表情、遊びに夢中で活動している姿を見付けるととても幸せな気持ちになります。

4月の初め、在園児は元の保育室に飛び込んで、「あれ?」「あっちがう!」と飛び出してくる姿があり、可愛く感じていました。今はそんなことはなく、堂々と自分の学級で活動し、年長組はプレイルームの大積木で堂々と遊んだり、3歳児の身体測定の手伝いでは洋服を裏返したり、廊下に出て遊びたくなるもも組の子どもを止めたりし、お兄さん、お姉さんぶりを発揮しています。年中組は担任が変わりましたが、特に目立って不安そうな姿も見られていません。保育室や園庭で安定して遊んでいます。製作や中積木、園庭で固定遊具や自然物を探し、楽しんでいるようです。年少組は登園時保護者と別れるのが寂しそうですが、落ち着いてくると保育室の遊具を組み立てたり、粘土の感触を楽しんだり、園庭の滑り台で滑ったりしています。今年度はいよいよ園庭の工事が始まるので、秋までは園庭での遊びをたくさん楽しんでほしいと思っています。

子どもたちは集団生活が始まりました。それと同時に保護者にとってもある意味、集団での生活が始まりました。子どもたちが学校に行くようになったということは保護者は子どもが学校の決まりを守れるよう、教育しなくてはなりません。持ち物は自分で持たせていますか。名札や持ち物に忘れ物はありませんか。時間が守れるようにしていますか。きっと今までの家庭での過ごし方、時間の使い方とは違って戸惑われることも多いと思います。しかしわが子は「初めての学校」に通うようになりました。子どもも初めが肝心です。「行きたくない!」「ママと居たい」「今日は休みたい!」など言うかもしれません。気持ちは分かるけれど、もう幼稚園という「学校の子ども＝幼稚園児」になったのです。お休みしないで毎日、たくさん経験ができるよう、手を携えて頑張りましょう。